

令和5年度事業報告

今年度事業推進上の基本方針

「瀬戸内海環境保全協会」の設立趣意を踏まえつつ、次の方針のもと事業を展開する。

「瀬戸内海の環境保全・創造」に関する活動拠点、瀬戸内海の各種対策のコーディネータとして、

(1) 瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築、教材等作成提供

(2) 瀬戸内海の栄養塩類や生物多様性等新たな課題に対する調査研究

(3) 瀬戸内海に関する各種情報、データの収集・発信

の中心的な役割を目指して事業を進めることとする。

また、事業実施にあたっては、瀬戸内海に関係する府県市、漁業団体、環境衛生団体の緊密な連携のもと、新たな水環境の考え方の一つである「(森・川・海の)流域管理」や「里海」をキーワードとしながら、環境省や瀬戸内海環境保全知事・市長会議、瀬戸内海研究会との連携をさらに密にし、豊かで美しい瀬戸内海を後世に継承していくための事業展開を図っていく。

I 事業

1 瀬戸内海の環境保全・創造に関する普及啓発、活動支援及び情報収集・提供

(1) 普及啓発・活動支援

① 令和5年度瀬戸内海環境保全月間の実施

環境省が毎年6月に実施する「環境月間」にあわせ、国、関係府県市、関係各種団体、関係企業などとの連携・協力のもとに、瀬戸内海の保全に関する広域的なキャンペーン活動を展開した。

期間：令和5年6月1日（木）から30日（金）までの1ヶ月間

主唱：公益社団法人 瀬戸内海環境保全協会

後援：環境省

実施主体：関係府県市、関係各種団体、関係企業等

実施内容：

- ・「瀬戸内海環境保全月間」の広報
- ・「瀬戸内海環境保全推進ポスター」の配布・掲出
- ・普及啓発用リーフレット・グッズ等の配布
- ・パネル・絵画・写真の展示
- ・環境保全に関する講演会、研修会等の開催、協力
- ・水辺、浜辺での自然・生物観察等「自然観察会」の開催、協力
- ・河川、海岸等のクリーンアップ、植樹等の地域美化活動の実施
- ・河川、海域での水質・生物調査、環境パトロールの実施

ア瀬戸内海環境保全推進ポスター事業の展開(昭和52年度～)

瀬戸内海の環境保全意識の高揚を図るため、次の事業を実施した。

1) 令和5年度瀬戸内海環境保全推進ポスターの配布・掲示

令和4年度に公募し、選定された最優秀作品を令和5年度瀬戸内海環境保全推進ポスターとして作成し、瀬戸内海環境保全月間に合わせて関係機関に配布して、瀬戸内海環境保全月間以降も広く掲示する。

なお、最優秀作品、優秀作品については定時総会で表彰した。

・配布枚数：4,500枚

〔令和5年度瀬戸内海環境保全推進ポスター〕



最優秀賞 前田 知輝 (中学生)
(徳島県吉野川市)



優秀賞 尾崎 斗馬 (小学生)
(山口県宇部市)



優秀賞 片山 仁希 (高校生)
(広島県福山市)

令和5年度定時総会での表彰



令和5年度定時総会会場での記念撮影
左から服部洋平(兵庫県副知事)、尾崎斗馬(優秀賞)、片山仁希(優秀賞)、前田知輝(最優秀賞)、木村正伸(環境省海域環境管理室長(当時))



令和5年度定時総会会場入口付近のポスター原画の前での記念撮影
左から服部洋平(兵庫県副知事)、尾崎斗馬(優秀賞)、前田知輝(最優秀賞)片山仁希(優秀賞)、木村正伸(環境省閉鎖性海域対策室長(当時))

2) 瀬戸内海環境保全推進ポスター原画の展示（平成22年度～）

定時総会、瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会にあわせて原画展を実施するとともに、一般の方に一人でも多く瀬戸内海に関心を持ってもらうことを目的に協会が保有している瀬戸内海環境保全月間ポスター入選作品の原画を展示し、環境保全の啓発を図った。

令和5年度瀬戸内海環境保全推進ポスター原画展の実施状況

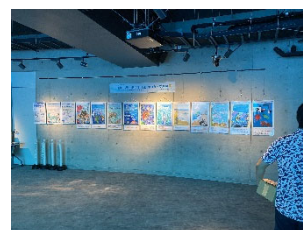
	期 間	開 催 場 所	所 在 地
①	R5. 4. 12～5. 10	神戸市立中央区文化センター	神戸市中央区
②	R5. 6. 6～6. 18	神戸海洋博物館	神戸市中央区
③	R5. 7. 7～7. 26	呉市中央図書館	広島県呉市
④	R5. 7. 21～8. 27	タカミヤ環境ミュージアム (北九州市環境ミュージアム)	北九州市八幡 東区
⑤	R5. 8. 2～8. 7	高松市こども未来館	香川県高松市
⑥	R5. 8. 9～8. 29	四国水族館	香川県綾歌郡 宇多津町
⑦	R5. 9. 30～10. 15	大阪市立自然史博物館	大阪市東住吉 区
⑧	R5. 11. 10	環境衛生団体合同研修会	北九州市小倉 北区
⑨	R5. 11. 11	ひょうご豊かな海づくり推進大会	神戸市中央区
⑩	R5. 11. 12	瀬戸内海環境保全特別措置法制定 50周年記念式典	神戸市中央区
⑪	R5. 11. 29	広島県公衆衛生大会	広島市佐伯区



②神戸海洋博物館



④タカミヤ環境ミュージアム



⑥四国水族館

3) 令和6年度瀬戸内海環境保全推進ポスター募集・選定（平成11年度～）

令和6年度瀬戸内海環境保全月間に向け、ポスターの原画を募集し、入選作品を選定した。

- ・ 作品募集期間：令和5年6月1日（木）～11月30日（木）
- ・ ポスター選定委員会の開催：令和6年2月16日（金）
- ・ ポスター応募数：一般部門 153件 こども部門 172件 総数 325件

②瀬戸内海環境保全への支援

ア 「里海づくり」支援事業の展開(平成23年度～)

地域住民等に対する瀬戸内海の環境保全意識の啓発、理解及び活動参加の推進を図るため、会員府県市が実施する人と自然が共生する「里海づくり」に係る環境学習事業や環境ボランティア人材育成事業に対し、資材（水生生物下敷、水質パックテスト等）を提供し支援を行った。

支援対象事業 ①自然観察会や子どもたちを対象とした体験的学習
②環境ボランティアの人材育成事業
③海洋プラスチックごみ対策に係るセミナー等のイベント
(①、②とは別枠で助成)

支援府県市：13府県15市（4年度は12府県17市、3年度は10府県16市）

事業実施期間：令和5年7月1日（土）～令和6年2月29日（木）

イ 環境保全事業への支援（昭和52年度～）

環境衛生団体や漁業団体が取り組んでいる浜辺の清掃や環境美化等、各種環境保全・創造活動事業に対し、その活動費用の一部を助成した。

（これとは別枠で海洋プラスチックごみ対策に係るセミナー等のイベント経費も助成）

助成申請団体数：4環境衛生団体、7漁業団体

事業実施期間 令和5年4月1日（土）～令和6年3月31日（日）

③環境保全研修の実施

ア 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修の実施(平成10年度～)

瀬戸内海を豊かで美しい海にするためには、様々な環境技術の継承や知識が求められており、新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に、瀬戸内法や環境技術等、瀬戸内海の新たな取り組みについて、研修を行った。

日時	令和5年10月18日（水）～20日（金）
場所	和歌山県和歌山市 スマイルホテル和歌山
参加人数	24名（10府県14市）

・講義

「瀬戸内海の海洋環境総論～地球環境も視野に入れて～」

広島大学 名誉教授 松田 治 氏

「瀬戸内海における環境政策と未来の方向性」

環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室 室長補佐 森川政人 氏

「貧栄養化・気候危機と水産資源：低次-高次生態系網の視点から」

大阪公立大学大学院工学研究科 教授 相馬明郎 氏

「海洋ごみ問題の改善に向けて：大阪湾での取組」

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科 准教授 千葉知世 氏

「水環境再生のために必要な内湾の流れと水質の視点：大阪湾を例に」

大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻みず工学領域

教授 入江政安 氏

「和歌山県における水環境保全の取組」

和歌山県環境生活部環境政策局環境管理課環境保全班長

山本道方 氏

・ 現地研修（視察）

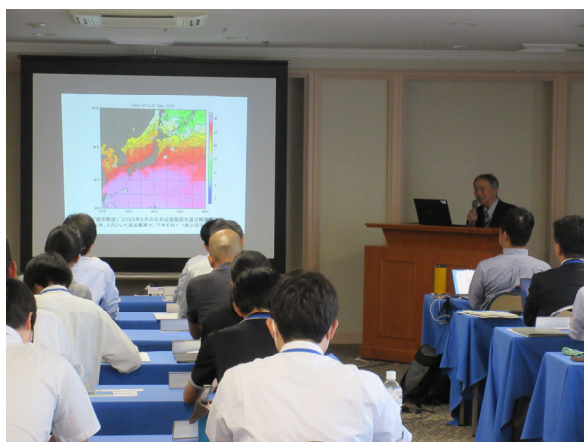
「友ヶ島における海洋漂着ごみの実態と取組み(一社)加太・友ヶ島環境戦略研究会 の活動紹介と案内」

案内・説明

徳島大学大学院 非常勤講師／(一社)加太・友ヶ島環境戦略研究会 環境教育部ディレクター 平井研 氏

・ ワークショップ

研修生を4つの班に分け、「海洋ごみ対策」をテーマに班別討議し、その後、全体討議を行った。



講義



講義



現地視察 友ヶ島



現地視察 友ヶ島



ワークショップ（班別討議）



ワークショップ（全体討議）

イ 瀬戸内海的环境保全に関する各団体合同研修会の開催（昭和53年度～）

当協会設立の原動力の一つである環境衛生団体と連携を継続・維持していくため、同団体の合同研修会を共同で開催した。

- ・ 主催：（公社）瀬戸内海環境保全協会、瀬戸内海環境保全地区組織会議、北九州市環境衛生総連合会
- ・ 後援：北九州市
- ・ 日時：令和5年11月10日（金）
- ・ 場所：ホテルクラウンパレス小倉 3階 ダイヤモンドホール
（北九州市小倉北区馬借1-2-1）
- ・ 参加人数：104名
- ・ 講演：「ブルーカーボンとは？ ～海藻による炭素吸収の可能性と地域住民に期待すること～」
電源開発株式会社 火力エネルギー部
若松総合事業所 所長補佐 鍵本 広之
- ・ 体験交流・意見交流：各府県市連合会の実践活動から
 - 1) 広島県 ボランティア清掃について 海洋プラスチックごみゼロを目指して
廿日市市公衆衛生推進協議会（廿日市市）
 - 2) 北九州市 笹尾川水辺の楽校の活動内容
笹尾川水辺の楽校運営協議会（八幡西区）
 - 3) 広島県 見て！さわって！学ぶ！ 海ごみ標本BOX貸し出し事業
一般財団法人広島県環境保健協会

※：本研修会の開催の会場電力、参加者の移動、会場の上下水道使用、廃棄物の処理および飲食物の提供によるCO₂排出量は、「電源開発(株)若松総合事業所周辺護岸に設置したブロック」による藻場造成プロジェクトのJブルークレジットでオフセットされています。



開講式



講演

ウ 瀬戸内海の環境保全に関する賛助会員等研修会の開催（平成6年度～）

当協会の賛助会員であり、ともに瀬戸内海の環境保全に取り組んでいる企業間のネットワークづくりの場として、企業ニーズを踏まえながら研修会を実施した。

研修内容は、前回の研修会参加者へのアンケート結果を踏まえ、賛助会員部会で検討を行い決定した。

1) 第1回研修会（見学）

テーマ：豊かな海の実現に向けた取り組み

- ・ 日 時：令和5年11月27日（月）11:00～16:30
- ・ 見学先：いずれも兵庫県明石市内
 - ① 明石浦漁業協同組合（競りの見学）
 - ② 兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター
 - ・ 豊かな海づくりに向けた取り組みについての講演 2題
 - ・ 館内見学
- ・ 参加人数：22名



競りの見学



講演

2) 第2回研修会（座学）

テーマ：サーキュラーエコノミーの実現に向けた取り組み

- ・ 日時：令和6年1月16日（火）13:30～16:30
- ・ 場所：スペースアルファ三宮 大会議室
（神戸市中央区三宮町1-9-1 三宮センタープラザビル6階）

- ・開催方式：Web参加が可能なハイブリッド方式
- ・内容

基調講演

循環経済への移行による循環型社会形成に向けた取組みについて
 湯山 桃子
 (環境省 環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室 室長補佐)

講演

- ①福岡県における廃棄太陽光パネルリサイクル推進の取組みについて
 田尻 興保 ((公財)福岡県リサイクル総合研究事業化センター プロジェクト推進班長)
 坂田 一則 (〃 プロジェクト推進班 コーディネーター)
- ②持続可能なまちづくりゼロウェイストタウン上勝の取組み
 菅 翠 (徳島県上勝町企画環境課 課長補佐)
- ③貝殻リサイクル魚礁「JFシェルナース」による豊かな海づくりの取組み
 片山 了介 (海洋建設株式会社 企画管理部長)

・参加人数：会場参加 18名、Web参加 45名 計 63名

エ 特別講演会の開催

令和5年度定時総会の終了後、同じ会場で特別講演会を開催した。
 (Web参加が可のハイブリッド開催)

- ・日 時：令和5年5月30日(火) 15:30～17:00
- ・場 所：神戸国際会館セミナーハウス 大会議室
- ・演 題：瀬戸内オーシャンズX、海洋プラスチックごみの課題と解決に向けた取組み
- ・講 師：小蓑 雅也
 日本財団 海洋事業部海洋環境チーム シニアオフィサー
- ・参加人数：会場参加 29名、Web参加 106名 計 135名

④環境保全事業への参加・協力

ア 会員等主催事業への参加・支援

会員等が主催する環境イベントで共催、後援を行ったり、瀬戸内海の環境保全に係るパネル（里海・海ごみ等）の貸し出しや展示等を行い、瀬戸内海の環境保全の普及・広報に努めた。

また、令和5年度は、次の啓発用パネルを新たに作成した。

- ・瀬戸内海ってどんな海
- ・若い世代の海への意識
- ・瀬戸内海の理解と魅力向上事業
- ・瀬戸内海における産官学民の連携

- イ) 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会が主催する「令和5年度瀬戸内海研究フォーラム in 山口（令和5年8月26日（土）～8月27日（日））」に協賛
- ロ) Techno-Ocean 2023（令和5年10月5日（木）～10月7日（土））に（公財）国際エメックスセンターと共同で出展
開催期間：令和5年10月5日（木）～10月7日（土）
場 所：神戸国際展示場 2号館
テ ー マ：海をいかす ～Sustainable Utilization of Ocean～
- ハ) 北九州市環境衛生総連合会が主催する「第60回北九州市環境衛生大会（令和5年10月13日（金））」の後援
- ニ) さとうみフェスタ2023への出展
日時：令和5年10月29日（日）11時～15時
場所：広島コンベンションホール 1階
（広島市東区二葉の里3-5-7）
主催：広島湾さとうみネットワーク
- ホ) 広島県公衆衛生大会の後援（令和5年11月29日（水））
- ヘ) 環境と健康のポスター・標語コンクールの（一財）広島県環境保健協会との共催（令和5年11月29日（水））
- ト) 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会が主催する「令和5年度瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ（令和5年12月19日（火））」の後援
- チ) パネルの貸し出し、電子データの使用許諾

団体名	目 的	時 期	区 分	内 容
環境省 中国四国地方環境事務所	環境イベント（くらしき環境フェア2023）での啓発グッズに使用	令和5年9月17日（日）	電子データの使用許諾	令和5年度瀬戸内海環境保全推進ポスターの画像データ

イ 環境NGO・NPO等との連携・支援

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO・NPOとの連携や支援を行った。

イ) 後援名義使用の承認

- ・ 3 海峡クリーンアップ大作戦（鳴門海峡・紀淡海峡・明石海峡）の後援
海岸清掃：令和5年11月4日（土）
パネル展：令和5年12月1日（金）～令和6年3月31日（日）
（淡路島内の公共施設または大型商業施設で開催）
- ・ 大阪湾フォーラム
日時：令和6年3月10日（日）13:00～17:00
会場：大阪市立自然史博物館 講堂
（大阪市東住吉区長居公園1-23）

⑤瀬戸内海の理解と魅力向上事業（令和4年度）

Web 上で瀬戸内海について知ってもらい、その魅力を感じてもらうために、令和3年度に特定非営利活動法人瀬戸内海研究会に委託して作成した環境教育用テキストの素材を編集して、令和4年度に作成した「瀬戸内海の理解と魅力向上『Web 学習テキスト』」を協会 HP に掲載した。（令和5年5月25日）

今後はこの Web 学習テキストの周知を行っていく。

⑥瀬戸内海環境保全に関する関係府県市・団体との連携

ア 瀬戸内海再生に向けた取組みの推進

瀬戸内海環境保全特別措置法の基本理念に基づき、豊かで美しい瀬戸内海の実現をめざし、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた調査・研究に取り組むための国に対する提案や種々の取組みを進めた。

また、令和5年は瀬戸内海環境保全特別措置法制定50周年にあたることから、瀬戸内海環境保全知事・市長会議、環境省とともに瀬戸内海環境保全特別措置法制定50周年記念式典を主催し、高校生によるポスターセッションや大学生から「瀬戸内未来ビジョン」の提言があった。

日時：令和5年11月12日（日） 11:30～15:30

場所：神戸国際会議場（神戸市中央区港島中町6-9-1）

イ 国に対する提案（昭和52年度～）

栄養塩の適正管理や藻場、干潟の保全等、単独の府県だけでは取り組めない瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた調査・研究に取り組むため、国に提案を行った。

・提案先：環境省（24人）、水産庁（12人）、財務省（23人）、国土交通省（27人）
計86人

（提案事項）

・施策の推進

- (1) 漁業が持続可能な豊かな海づくりのための湾・灘ごと等の地域の実情に応じたきめ細やかな栄養塩類の管理手法や順応的管理の考え方に基づく取組の推進方策、評価手法の具体化及び財政支援
- (2) 藻場、干潟等の浅場の整備、環境配慮型護岸の整備、底質の改善、赤潮防止対策の推進及び財政支援
- (3) 水質浄化・物質循環に寄与する二枚貝等を捕食する有害生物対策の推進
- (4) 瀬戸内海の自然景観と文化的景観の保全と再生に向けた取組（自然、文化、歴史等の既存の情報収集とその広報活動を含む）
- (5) 瀬戸内海特有の景観を活用し、エコツーリズム推進法に基づいたエコツーリズムを行うことにより、島しょ部等地域が持つ特有の魅力の再評価及び地域の活性化を図る事業の推進方策、評価手法の具体化及び財政支援
- (6) 多様な主体と連携した海ごみ（漂着、漂流及び海底ごみ）流入防止や発生抑制も含めた対策の推進

- (7) 里海や豊かな海に関する一般市民の認知、理解の推進
- (8) 瀬戸内海の環境保全・再生・創出のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業並びに新たな視点での水環境を基調とした海文化を通じた環境啓発事業の推進
- (9) 地域で活動している NPO 団体との連携による地域づくり活動の実施体制の構築（指導者やボランティアの育成）及び活性化

・調査研究

- (10) 栄養塩類の働きを踏まえた高次生態系モデルの構築に関する調査研究及び生態系データの共有化
- (11) 施肥及び下水処理場の管理運転等による栄養塩類供給手法が海藻や貝類等の生物の成長及び水産資源等に与える影響に関する調査研究
- (12) 栄養塩類管理のための各湾灘の実態に応じた栄養塩類供給措置以外の手法（流況改善等）に関する調査研究
- (13) 赤潮や貝毒に係る有害プランクトンの発生に関する調査・研究
- (14) 藻場・干潟の機能と造成効果に関する調査・研究（藻場・干潟の生態系に取り込まれたブルーカーボンに関するものを含む）
- (15) 水温上昇により助長される貧酸素水塊の発生要因の解明、改善方策に関する調査・研究
- (16) 瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実（特に生物、藻場、干潟等の自然環境情報）及び瀬戸内海環境情報基本調査の継続実施
- (17) 瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査・研究
- (18) 地球温暖化や高蓄積性・難分解性の有害化学物質及び物質循環低下の影響並びに栄養塩類管理、生物多様性・生物生産性確保の観点でその影響を予測する瀬戸内海の環境モデルの開発に関する調査・研究
- (19) 多様な主体と連携した海ごみ（特に海洋プラスチックごみ）の流入実態把握、効果的な流入防止対策、発生抑制への取組みに関する調査・研究
- (20) 里海や豊かな海に関する一般市民の認知、理解の現状把握及び向上に関する調査・研究
- (21) 瀬戸内海研究会議の調査・研究及び普及・教育活動に対する支援

ウ 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進を図るため、研修会の充実やセミナー等での広報に努めた。

また、次の措置を昨年度から引き続き行った。

- ・ 賛助会員が瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムに参加する際の旅費の半額補助

エ 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議（平成25年4月1日設立）の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進について支援・協力を行った。

- ・ 瀬戸内海研究フォーラム in 山口（令和5年8月26（土）～27日（日））に協賛し、企画・準備・運営ならびに現地開催を支援した。
- ・ 瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ※（令和5年12月19日（火））

の後援、開催協力

※:ワークショップのテーマ

瀬戸内海を豊かな海に～何をすべきか～

(瀬戸内海研究会議は、豊かな瀬戸内海に向けた提言に取り組んでいる。今回のワークショップでは、提言に係る中間報告や、意見交換を行いました。)

オ 国際的な活動への協力

(公財)国際エメックスセンターが行う国際的な行事について協力を行った。

(2) 情報共有・発信事業

瀬戸内海の環境保全にかかる現状や、瀬戸内海のあり方、行政施策に関する情報を収集し、今後の施策や事業の連携、協調を図るため、府県市、漁業団体、環境衛生団体等の会員をはじめ、関係する市民等に広く情報を発信し共有した。

①総合誌「瀬戸内海」の発行・配布(平成6年度～)

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を発行・配布するとともに協会ホームページに会員限定で掲載した。

・発行回数：年2回

第86号：令和5年9月発行 350部

特集 瀬戸内海の社会経済的な評価

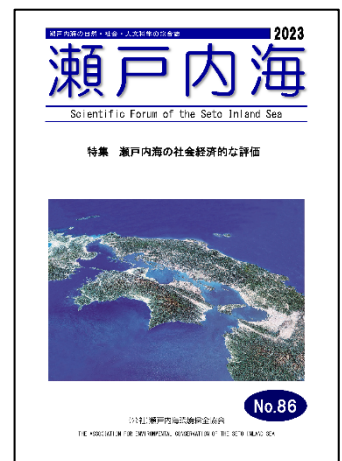
第87号：令和6年3月発行 350部

特集 瀬戸内海環境保全臨時措置法の制定から
50周年を迎えて

・無償配布：会員団体(冊子)

・有償配布：年間購読者等(冊子)

年間購読料 2,500円(税込み)



「瀬戸内海」第86号

②資料集「瀬戸内海の環境保全－令和5年度版－」の作成 (昭和53年度～)

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、資料集「瀬戸内海の環境保全－令和5年度版－」を作成しホームページに掲載した。(1年間は会員のみアクセスを限定)。

③協会ホームページによる情報の発信(平成10年度～)

瀬戸内海の環境保全に関する環境学習情報等を広く一般の方も容易に入手できるとともに、環境保全に取り組むNPOのネットワーク化にも役立つよう協会ホームページのリニューアルを行った。

④メールマガジンによる情報の発信(平成23年度～)

会員府県市、漁業団体、環境衛生団体及び協会が有するトピックスを収集し、情報共有や施策立案等だけでなく会員を通じた普及啓発に資する情報発信を行った。

2 瀬戸内海環境保全・創造に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業

豊かで美しい瀬戸内海実現に資する調査・研究事業について、外部資金の獲得を目指した活動を行う。令和5年度は次の事業を兵庫県から受託した。

ひょうごの海を活用したブルーカーボンの創出業務（令和5年度：兵庫県委託）

2050年カーボンニュートラルに向けて、新たなCO₂吸収源として、海藻や海草の藻場などのブルーカーボン生態系が注目されている。

本業務では、全国シェア22%を占める養殖ノリに着目し、ブルーカーボンとしての可能性を検討するとともに、ノリの製造過程におけるCO₂排出量を把握し、養殖ノリの生産・製造過程でのCO₂排出量削減への取組を促進することにより「兵庫のり」のブランディングを模索する。

一方、藻場等の再生・創出を促進するため、学識者、地域団体、事業者、行政等からなる連絡会議を設置し、藻場拡大手法やクレジット化支援方策を検討する。

II 一般事項

1 会議等の開催

(1) 総会

- ① 定時総会（令和5年5月30日（火） 神戸国際会館セミナーハウス）
 - ・ 令和4年度事業報告及び決算
 - ・ 会費の額
 - ・ 国に対する提案
 - ・ 令和5年度事業計画及び収支予算

(2) 理事会

総会付議事項及び業務の執行に関する事項を協議した。

- ① 第22回理事会（令和5年5月11日（木） 兵庫県公館）
 - ・ 専門委員の委嘱
 - ・ 定時総会付議事項

- ② 第23回理事会（令和6年3月5日（火） 神戸市立中央区文化センター）
 - ・ 令和5年度事業実施状況
 - ・ 令和6年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

第1回企画委員会（令和5年11月22日（水） 神戸市立中央区文化センター）

- ・令和5年度事業実施状況
- ・令和6年度事業計画案（素案）など

第2回企画委員会（令和6年2月19日（月） 神戸市立中央区文化センター）

- ・令和5年度事業実施状況
- ・令和6年度事業計画（案）及び収支予算書（案）など

②編集委員会

協会が発行する「瀬戸内海」の編集方針を定めるとともに、特集テーマや掲載内容及び執筆者等の検討を行った。

第1回編集委員会（令和5年9月25日（月） 神戸市立中央区文化センター）

- ・「瀬戸内海」86号（令和5年9月発行）の編集結果について
- ・「瀬戸内海」87号（令和6年3月発行予定）の原稿収集について
- ・「瀬戸内海」88号（令和6年9月発行予定）、89号（令和7年3月発行予定）の特集について

第2回編集委員会（令和6年2月9日（金） 神戸市立中央区文化センター）

- ・「瀬戸内海」87号（令和6年3月発行予定）の編集状況について
- ・「瀬戸内海」88号（令和6年9月発行予定）の原稿収集について

③賛助会員部会

協会活動に対する賛助会員の積極的な参画と賛助会員に係る事業の検討・企画を行った。

第1回賛助会員部会（令和5年8月3日（木）三宮研修センター）

- ・令和5年度賛助会員に関する事業等について

第2回賛助会員部会（令和6年2月22日（木）神戸市立中央区文化センター）

- ・令和5年度賛助会員に関する事業の実施状況について
- ・令和6年度賛助会員に関する事業計画素案について など

(4) 参事・事務局長並びに担当課長会議

（令和6年2月29日（木）神戸市立中央区文化センター）

会員に対する協会事業の理解と周知を図るとともに、事業活性化のため、会員相互の情報交換等を行った。

2 専門委員の委嘱

企画委員、編集委員、賛助会員部会委員を委嘱した。

(1) 企画委員（13名）

橋田 学 大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長

山本竜一	兵庫県環境部水大気課長
秋山日登美	広島県環境県民局環境保全課長
中西正光	香川県環境森林部環境管理課長
北村雅子	大分県生活環境部環境保全課長
松井直樹	大阪市環境局環境管理部土壌水質担当課長
中西寛光	神戸市環境局環境保全課長
小澤哲也	寝屋川市環境部次長兼環境保全課長
今岡秀之	高松市環境局次長兼環境指導課長
末富武志	山口県漁業協同組合指導部次長
山崎 亮	愛媛県漁業協同組合参事兼経営企画部長
中村博信	(一財) 広島県環境保健協会地域活動支援センター長
河本英一	(公社) 山口県快適環境づくり連合会事務局長

(2) 編集委員 (10名)

井上尚和	(株)神戸製鋼所安全・環境部シニアプロフェッショナル
中西正光	香川県環境森林部環境管理課長
森川政人	環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室室長補佐
佐山 浩	関西学院大学総合政策学部教授
山本竜一	兵庫県環境部水大気課長 (知事・市長会議事務局)
五利江重昭	兵庫県立農林水産技術総合センター内水面漁業センター所長
住田典子	(一財) 広島県環境保健協会地域支援課長
藤原建紀	京都大学名誉教授
滝本恵介	関西電力(株) 火力事業本部火力運営部門発電グループチーフマネジャー
鷺尾圭司	元国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校理事長

(3) 賛助会員部会委員 (7名)

滝本恵介	関西電力(株) 火力事業本部火力運営部門発電グループチーフマネジャー
西山友世	川崎重工業(株) 環境・エネルギー管理部環境エネルギー推進課基幹職
泥 俊和	(株)神戸製鋼所 理事兼安全・環境部長
中西浩之	四国電力(株) 立地環境部環境グループ グループリーダー
小野 健	いであ(株)大阪支社 環境技術部長
磯野直博	大塚製薬(株) 徳島本部環境課長
佐守広志	山口県瀬戸内海環境保全協会 (株)トクヤマ 徳山製造所 環境安全部環境管理課長)